

## チリ: フェゴ島 Lago Mercedes 鉱区のカスタ田は商業規模の可能性高い(短報)

(IOD、PN、BNA 他)

- ENAP は、フェゴ島の Lago Mercedes 鉱区で発見されたカスタ田は商業規模の発見である可能性が高く、引き続き FS を行い、年末までには埋蔵量を確定したいと発表した。アルゼンチンによる天然ガス供給規制に苦しむチリは同カスタ田に大きな期待を寄せており、また、Petrobras、Marathon、Apache、BG などこのカスタ田の開発に興味を示している。
- アルゼンチンによる天然ガス供給規制により具体化した南米初の LNG 受入基地の稼働開始は 2008 年末、受入能力は 20Mm<sup>3</sup>/d で、ENAP を含むコンソーシアムは、当初少なくとも 6Mm<sup>3</sup>/d を購入する計画である。BG は LNG 供給源としてナイジェリアと赤道ギニアを検討している。

### フェゴ島でのカスタ田発見

チリの国営石油会社 ENAP は、同国南部 Region X II、フェゴ島の Lago Mercedes Basin で発見したカスタ田は商業規模の発見であることが、ほぼ確実であると発表した。

ENAP は、2005 年 6 月に同カスタ田を発見し、9 月から米国の Helmerich & Payne International Drilling に 2 抗の掘削を行わせたところ、深度 3,700~4,080m の 3 つの層で天然ガスが確認されたという。ENAP は引き続きフィージビリティ・スタディを続けるとしており、間もなく 3 抗目の掘削を開始する計画である。ENAP は最低でも 5Tcf の埋蔵量が期待できるとしており、年末までには埋蔵量を確定したいとしている。さらに、同カスタ田について、生産量は少なくとも 5Mm<sup>3</sup>/d で、最大で 15Mm<sup>3</sup>/d が見込まれ、国内消費の 25% を賄い、チリ南部だけでなく同国全体に供給することも可能としている。

ENAP は、2007~08 年には生産を開始する計画であるとしており、生産されたガスは同カスタ田から約 125km 離れたガスパラントまで、2,200 万ドルを投じて新たに敷設される 3 つのパイプライン(直径 18 インチ)で運ばれる計画である。総投資額は 7,000 万ドルが予定されている。

なお、Petrobras、Marathon、Apache、BG など 14 社が、同カスタ田の開発に興味を示しているという。

Enap は Region X II では新規カスタ田がさらに発見される可能性が高いとの考えから、同地域での探鉱に力を入れていく計画で、今後 2 年間に Dorado-Puerto Sara、Punta del Cerro、Riquelme-Manzano 各鉱区での探鉱に 5,000 万ドルを投じる予定である。

#### Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

## LNG 受入基地の近況

5月中旬に、バチエレ大統領が、LNG 受入基地建設の定礎式に出席し、プロジェクトが進捗していることを内外にアピールしたが、受入基地コンソーシアム(ENAP、Endesa、Metrogas)と2月にLNG 受入基地の落札者に決定したBGとの間では、引き続き、同基地の建設並びにLNG の供給について交渉が行われている。

サンチャゴの北西、RegionV キンテロ(Quintero)に建設される同基地は、2009年に稼働開始が予定されていたが、現在は、建設などを急ぐことで、2008年末までには一部稼働を開始する計画となっている。

同基地の受入能力は20Mm<sup>3</sup>/dを計画しており、コンソーシアムは当初、少なくとも6Mm<sup>3</sup>/dを購入する予定である。両者は、将来、受入能力を拡張することを計画しているが、最終的にどの程度まで拡張するかについては明らかにされていない。ENAPは、2010年までにチリはアルゼンチンからの天然ガス輸入を中止する可能性もあり、LNGは国内のガス需要を満たすため重要な役割を果たすことになるとしている。さらに、2015年までにはLNGの受入量は倍増し、同国のエネルギー供給の22%を占める見通しであるとしている。

なお、BGは、LNG供給源としてナイジェリアか赤道ギニアを検討しているという。

また、コンソーシアムへの参加を検討していたチリの電力会社ColbunとAESGenerは、同プロジェクトへの参加を見送ることとなった。

## チリの天然ガス需給

2005年のチリの天然ガス消費量は76億m<sup>3</sup>、輸入量は65億m<sup>3</sup>で、チリは輸入量の全量をアルゼンチンから輸入している。年々増加していたアルゼンチンからの天然ガス輸入であったが、2004年4月にアルゼンチンは天然ガスの生産不足からエネルギー危機に陥り、チリへの天然ガス輸出を制限した。その結果、アルゼンチンからチリへの天然ガス供給は大きく減退し、その後も、アルゼンチンの天然ガス輸出規制は断続的に続いている。チリ政府はアルゼンチンの天然ガスに大きく依存しているエネルギー需給態勢を改善したいと考えており、探鉱の活発化、LNG輸入の他にも、国内9カ所で水力発電所を建設することを計画している。

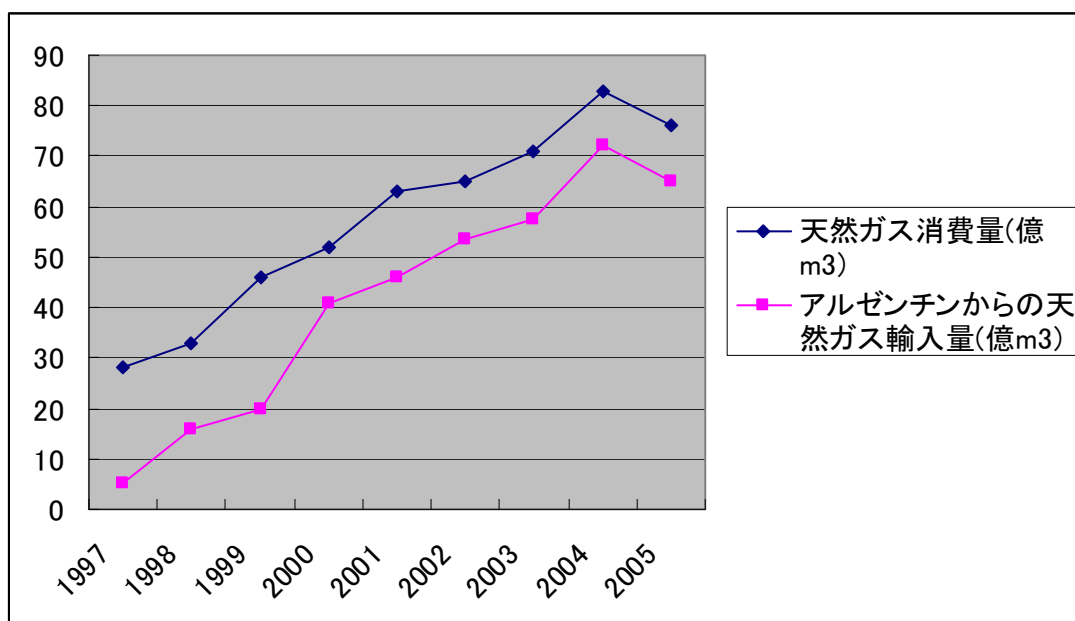
なお、チリは南米第2位のガス埋蔵量を保有するボリビアと国境を接しているものの、古くから国境紛争を抱え、両国間には正規の外交関係はない。チリにとって、ボリビアからガスを輸入する可能性も考えられないわけではないが、ボリビアは代わりに太平洋へのアクセスを要求しており、現在のところ両国の間に歩み寄りは見られない。

### Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

また、アルゼンチンとボリビアが、6月末に天然ガス輸出について合意したが、この中にボリビアで生産される天然ガスをアルゼンチンがチリへ再販売することを規制する項目が含まれており、チリ政府はこの点についても懸念を深めている。さらに、この合意によりアルゼンチン向けの天然ガス価格が3.50ドル/MMBtuから5.0ドル/MMBtuに引き上げられたことから、現在、3.50ドル/MMBtuとされているアルゼンチンからチリ向けの天然ガス価格が引き上げられることも予想される。

チリの天然ガス消費量とアルゼンチンからの輸入量(BP統計より作成)



**Global Disclaimer (免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。